

随想

夕やけこやけ



ビートルズ巡礼



昭栄産業株式会社
代表取締役社長
平澤 利明

2016年は、昭栄産業(株)創業75周年にあたる記念すべき年です。私の父故平澤藤夫が、1941年6月東京新橋において工作機械や精密工具の販売を目的に「昭和精工社」を立ち上げ、その後1946年に縁あって新潟県に拠点を移し都合75年が経ちました。最近100年企業も珍しくないとはいえ、やはり四分の三世紀に亘って歴史を刻んでこられたのは、多くのステータホルダーのみならず、そして現在の礎を築いてくれた先輩社員諸兄のお陰と心より感謝を申し上げます。

ところで、もうひとつ私にとって今年は特別な年です。それは、ビートルズが1966年来日公演をしてから、50周年にあたる年であるというこ

とです。高校一年生になったばかりの私は、幸運にもチケット(南西スタンド扉 1階 B列 17番)を手に入れ、日本武道館で彼らのライブを聴くことができました。中学一年生の終わり頃からビートルズファンになった私は、その後もずっとビートルズを聴き続けています。

20年前、作家芦原すなお氏が「ビートルズ巡礼」というエッセイを上梓しました。彼がビートルズ縁の地を訪ね歩く話を読んで私もこれを真似ようと思ひ、彼のように一気には無理なため機会あるごとに少しずつ訪ね歩くことを始めました。ロンドンのアビーロードスタジオ、リバプールの彼らの生家跡、ビートルズ博物館(The Beatles Story Exhibition) など、いずれも心躍る経験でした。特にこの博物館は民営なのですが展示品は充実していて、何時間見ても飽きないくらいです。気になったのが年表で、彼らの来日公演年月日が誤っていたため、勇気を振り絞って土産物売り場にいた店員にそれを指摘しました。最初はほとん

ど無視しようとしていた様子でしたが、指摘の理由を私が武道館で観た(聴いた)のだから間違いないのだという、突然「おお、あなたはリアルタイムでビートルズを聴いたのか?!」と、急に尊敬の眼差しに変わったのです。そしてあれやこれや尋ねてくるのですが、英語がよく聞き取れず(英語がそこそこ得意な同行者もそのリバプール訛りに閉口)ほとんどチンプンカンプン。しかし、買い物の際、葉をおまけにくれたので、きつと彼らも多少は私の話を理解し喜んでくれたのでしょう。その後、年表は訂正してくれたのかどうか…。

一ヶ所残っていた聖地、彼らが無名のころ出稼ぎに行ったドイツのハンブルグを、昨年ようやく訪ねることができました。横浜を少し小さくしたような港町情緒あふれる素敵な街ですが、若き日のビートルズがここで演奏の腕を磨いた、などということを知っている人は少ないように感じました。ビートルズプラッツへ行こうとしても、場所を知らない人ばかり。帰る日に乗ったタクシートの運転手が何しにハンブルグへ来たのかと尋ねるので、ビートルズ巡礼だと答えると笑顔で彼らのCDをかけてくれる気遣いには嬉しくなりました。そして、しかし、こう言ったのです。「彼らがハンブルグで活躍したのは30年くらい前だね」と。ビートルズは遠くなりけり。